

平成20年1月24日

於 教育委員会室

平成20年1月

大和市教育委員会定例会

大和市教育委員会

平成20年1月大和市教育局定例会

平成20年1月24日(木曜日)

出席委員(5名)

1番	委員長職務代理者	田村	繁
2番	委員	長谷川	愛子
3番	教育長	山根	英昭
4番	委員	奥原	美帆
5番	委員	鈴木	健次

事務局出席者

教育総務部長	井上	昇	総務課長	井上	純一
学校教育課長	小川	輝夫	学校教育課 保健給食担当 課長補佐	浜田	和博
指導室長	内澤	建治	教育研究所長	伊藤	恵子
生涯学習部長	熊谷	薫	社会教育課長	曾根	博明
スポーツ課長	堀内	一雄	生涯学習 センター館長	小方	明
青少年 センター館長	相沢	克正	図書館長	斎藤	一夫

書記

総務課庶務  
調整担当  
課長補佐  
岩本 信也

日程

- 1 開 会
- 2 会議時間の決定
- 3 前会会議録の承認
- 4 会議録署名委員の決定
- 5 教育長の報告
- 6 議 事

日程第1(議案第1号) 大和市放課後児童クラブ事業条例の一部を改正する条例について

- 7 そ の 他
- 8 閉 会

開 会

開会 午前10時00分

鈴木 開会に先立ちまして、傍聴の方に申し上げます。傍聴人は議事について可否を委員長 表明したり、審査に支障を来すことのないよう、申し上げておきます。

それでは、教育委員会1月定例会を開会いたします。

会議時間は正午までといたします。

前回の会議録は、署名委員の署名をもって承認されました。

今回の署名委員は、4番、奥原委員、1番、田村委員にお願いをいたします。

続いて、教育長に報告をお願いいたします。よろしく申し上げます。

山根 それではよろしく申し上げます。

教育長 最初に、次期の学習指導要領についてですが、1月17日に中教審の答申がありました。今後のスケジュールですが、今年度内改訂を目指すということが文科省から表明されております。平成21年度、22年度が移行期間、そして平成23年度から小学校、平成24年度から中学校が完全実施ということになっていきます。ただ、高等学校と特別支援学校の場合は、できるだけ早い時期に改訂実施を

する予定になっていますので、そちらの動きも踏まえながら、市としても対応をしていきたいと考えております。

それでは、前会12月20日以降の件につきまして、主な事項を報告させていただきます。

2番目、平成20年大和市消防出初め式ですが、1月6日、引地台公園多目的広場で行われました。常備消防と非常備消防という区分の中で、常備消防として、消防本部及び消防署から234名、車両は37車両が出動しています。非常備消防として、消防団から238人、車両は17台の出動となっております。

5番目、第50回大和市駅伝大会、1月13日、大和スポーツセンター競技場を中心に行われました。非常に寒い中でしたが、100チーム出場という目標を達成し、50回目の記念大会として、ちびっ子部門を設けるなど、充実した内容で、無事に終了しました。

6番目、やまと成人式ですが、1月14日、大和スポーツセンターで行われました。初めて、新成人が実行委員長を務められ、印象としては、非常に良い成人式であったと思えました。

7番目、国民保護講演会ですが、保健福祉センターで実施されています。独立総合研究所の青山繁晴氏が講師ということでした。有事など緊急時に、国・県・市が連携して住民の避難や救援を行うことへの理解を深めるための講演会でした。

そこで、4点ほど印象に残りました部分を申し上げますと、まず、とにかく避難訓練を実施する。その際に、何らかの失敗が判明したときに、その失敗を大切にして、より現実的な対策マニュアルに手直しをしていくという部分が1点目です。

2つ目として、高齢者など、介助を必要とする方の把握方法として、個人情報保護の観点からの整理が必要となりますが、「あなたは人の助けが必要か」、あるいは、「つえ等の道具が必要か」というアンケートを行う。その中で介助を希望する人を把握していくことを話されていました。

3点目として、原発が攻撃された場合を想定し、気体を流すことにより、風向き等によってその流れを把握する。そうすることによって、風下になりがちな危険地帯を事前に把握しておくことの大切さを話されていました。

最終的には、地域住民が、自分たちの地域は自分たちで守るという意識を持つということが必要であるということでした。

以上でございます。

鈴木 ただいまの教育長の報告につきまして、質問、ご意見ありましたら、お願いし  
委員長 ます。

長谷川委員。

長谷川 7番目の国民保護講演会についての中で、「避難訓練」に関してですが、学校  
委員 中での避難訓練について、防災意識が年々徐々に高まっていく中で、内容を見  
渡す機会があれば良いのではないかと常々思っておりました。教育長からご報告  
をいただきまして、大和市での学校における避難訓練の今後の取り組みについ  
て、お聞かせいただけたらと思います。

内澤 現在の取り組みとしては、地震を想定しての避難訓練、あるいは火事を想定し  
指導室長 での避難訓練を行い、あるいは不審者を想定してのマニュアル等を、各学校で、  
それぞれ作成しています。

山根 今、室長のほうでお話したとおりですが、避難訓練については、実施しながら  
教育長 その都度見直しを行っています。例えば火災の際は、風向きや周囲の建築物の状  
況によって影響がありますので、適切な避難場所が確保できているかどうか、見  
直しと確認を繰り返しながら、マニュアルを作っております。

井上 市全体の考え方も含めまして、お話をいたします。

教育総務 武力攻撃事態に対する訓練につきましては、攻撃によって被る災害の状況、そ  
部長 れから武力攻撃に使用される武器の状況によって、攻撃される地域、これらによ  
りましては、大和市から隣の市に避難するだけでは対応ができないということも

当然想定されるわけですから、そういったケースにおける避難訓練をどのように実施するかということは、非常に大きな広域的とも言える問題でございまして、学校単体だけで考えられる問題ではないのではと思います。

県の方では、まず図上訓練を行って、その後必要であれば、実際の動きもやってみるということになっていますが、全県で、全員がどちらかの方向へ避難する必要はある訳です。

そういう意味では、国民保護法に特化した訓練を、学校教育現場で、すぐにもやるという考え方はありません。

鈴木 質問ですが、災害、いわゆる自然災害のようなものは、その法律の対象ではないのでしょうか。

井上 武力攻撃事態、あるいはそれに準ずるもの、テロも含まれますが、政府が認定した場合を想定しています。例えば日本に対して核兵器が使用された場合、そういった訓練を、学校単体で先行して行うということは、現実的には難しい話であると思います。大きな課題ですので、学校側が特に先行して行うということはないと思います。

長谷川 今、学校に通っている子供たちの親が一番心配していることは、自分が迎えに行くことができるかということです。都心まで通勤する人に、帰宅困難に備えての訓練があるように、通勤先から自分の子供の小学校まで、とても徒歩で行くことができない場合に、どのような対応が考えられるのか、防災の専門家によって、まず、図上で対策を練っていただいてから、教育委員会、そして学校の取り組みということで、備えなければいけない範囲が相当広まっているということを実感し、今までの避難体制で済むのかどうか、このような講演会を契機に考えていただきたいと思い、発言させていただきました。

鈴木 ほかにございますか。

委員長 特にならぬようございまして、教育長の報告に対する質疑を終了いたしまして、議事に入りたいと思います。

## 議 事

鈴木 日程第1（議案第1号）「大和市放課後児童クラブ事業条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

相沢青少年センター館長、細部説明をお願いいたします。

相沢 「大和市放課後児童クラブ事業条例の一部を改正する条例」につきまして、説明をさせていただきます。

館長 本条例につきましては、11月の本教育委員会定例会において審議いただきました。その結果をもちまして、市議会12月定例会に上程し、全会一致で賛成を頂いたところでございます。

しかしながら、本条例が組織改正を前提として提案をされておりました中で、組織改正のために提案されておりました「大和市事務分掌条例の一部を改正する条例案」が、本会議において否決となりました。これによりまして、4月1日に青少年センターの事務は、市長部局に移行される予定がなくなりましたので、本児童クラブの事務につきましては、引き続き教育委員会の分掌事務となります。

そこで、今回の提案となったものでございます。具体的には、条文中の「市長」となっている部分を、「教育委員会」と改めるものでございます。

新旧対照表中の、第3条第2項中、「市長」とありますのを、「大和市教育委員会（以下「教育委員会」という。）」に改めます。

次のページ、同条第3項の「市長」を「教育委員会」、「規則」を「教育委員会規則」に改めます。

第4条から次のページの第10条までの条文中、「市長」とありますのを、「教育委員会」に改めます。

それから、11条中の「規則」を「教育委員会規則」に改めるものでございます。

また、この条例は、公布の日から施行するとなっております。

これによりまして、平成20年度からの放課後児童クラブ事業に関する事務につきましては、今までの児童ホームと同様、教育委員会生涯学習部青少年センターが担当することとなります。

なお、本条例に伴います教育委員会規則を制定する必要があります。市議会3月定例会にて、この一部改正が成立した後に、教育委員会3月定例会に付議したいと考えておりますので、よろしくお願ひしいたします。

鈴木 細部説明が終わりました。

委員長 質疑、ご意見等ございましたらお願ひをいたします。

本年度中の、組織改正というものはないと、考えてよろしいでしょうか。

井上 市議会3月定例会に、12月に上程したものと全く同じものを上程すること教育総務は、恐らくないと考えられます。ただ、規則改正で対応できる部分もありますの部長で、教育委員会においても、教育総務部として、学校教育課について要望している部分はあります。それは、教育委員会規則の改正の中でできますので、関係部署に再度要求をしているというところです。

鈴木 ほかにございませんでしょうか。

委員長 ないようでしたら、質疑、討論を終結いたします。

これより議案第1号について採決をいたします。

本件の原案に対し、ご異議はございませんでしょうか。

(異議なしの声)

鈴木 異議なしということで、議案第1号は可決いたしました。

委員長

#### そ の 他

鈴木 続いて、その他に入ります。

委員長 各課で報告事項がありましたら、順次お願ひをいたします。

曾根社会教育課 曾根社会教育課長。

曾根 「つる舞の里歴史資料館の企画展の開催結果」について、ご報告いたします。

社会教育 お手元のほうに、パンフレットを置かせていただきました。会期中に、来場者課 長 に配られたパンフレットでございます。

開催期間が11月22日から12月16日までの実日数22日間で、来館者741人の方が来館されました。

今回の展示は、「寄木細工」ということで、その歴史であるとか、魅力、それから職人の高度な技術の結晶ということ、市内在住の金子皓彦さんのコレクションでございます。伝統工芸の大切さを知ってもらうということが一つのねらいでございます。

鈴木 これについては、何かありますでしょうか。

委員長 700名余の来場者数については、どのように受けとめていらっしゃいますか。

曾根 1日平均33人になります。従来の常設展示の際の入館者は、1日10数人で社会教育したので、やはり企画展の効果は大きかったと認識しております。

課 長

鈴木 金子皓彦さんのコレクションは、全部で1万5,000ぐらいあると聞いております。市内在住の方が、世界的にも誇れるコレクションをお持ちで、事実として、大掛かりな展示会を催すと相当の人が集まってくるほどのコレクションですので、こういったものを活かせるような、大和市として誇れるような施設を、何らかの形で実現できるようにご尽力いただければと思います。

次に、曾根社会教育課長。

曾根 社会教育課の2番目の報告ですが、郷土民家園にあります市指定重要文化財旧社会教育北島家の差し茅の補修工事についてでございます。

課 長 日程は、1月14日から3月14日までの工期の間ということでございまし

て、実際、屋根茅のふき工事自体は、2月11日ごろから実施される予定です。  
茅ふき屋根のふきかえの作業は、恐らく大和では中々見られるものではないと思われ  
ますので、基本的には傷んだ茅を補修をしていくということになるわけですが、日程を  
定めまして見学会を開きたいと考えております。

鈴木 木 これについては何かございますか。

委員長 長谷川委員。

長谷川 以前の会議等で、私の方で、一般の方が見学する機会をぜひ設けていただき  
たいというお話をさせていただいたので、その日程をご検討いただけるということで、  
非常にありがたく思います。

近隣の小中学校も、もし平日で時間が合って、安全な場所設定であれば、学校教育  
課・指導室の方とも連携をうまくとっていただいて、たくさんの人、そして子ども  
が見学する機会をつくっていただけると良いと思います。

鈴木 木 それでは、次に曾根社会教育課長。

委員長

曾根

社会教育 3つ目の報告ですが、「さくら文芸祭の一般公募展」についてでございます。  
課 長 昨年に引き続きまして、短歌、俳句、川柳の公募展を行うわけですが、今回の  
テーマは、昨年に引き続きまして、「さくら」というテーマにしました。

1月25日をもちまして応募期間は締め切りをしますが、展示期間は、3月7  
日から3月12日を予定しております、場所は、郷土民家園、ちょうど河津桜  
が咲いているところに短冊を並べようと考えております。

昨年は、短歌32点、俳句51点、川柳39点、合計122点の応募がござい  
ました。現在応募の集計の最中ですが、昨年の応募数を上回るような応募が見込  
めるようでございます。

鈴木 木 これについては何かございますか。

委員長 長谷川委員。

長谷川 つい先ほどの補修工事の期間との兼ね合いはいかがでしょうか

委員

曾根

社会教育 現在、郷土民家園の運営管理をしております財団法人スポーツ・よか・みどり  
課 長 財団のほうと調整をしておりますが、旧小倉家の庭をメインの展示会場にする予  
定でございます。

河津桜そのものは、施設の外周にありますので、工事を避けて、展示をすること  
は可能であろうと考えています。

鈴木 木 民家園は、自然の中にあって桜があり、ケヤキもありで素晴らしいところだと  
委員長 思います。

俳画展という催しが、横浜市の瀬谷の民家園で開かれておられて、そういった  
文化的な事業を、そういった施設で行うことは、取り巻く雰囲気もあって、大  
変結構なことであると思っています。

その瀬谷の施設ですが、維持管理を地域の方がボランティアでやっていらっ  
しゃるということです。そのように、地域の方と連携して文化活動を推進してい  
るところは、参考になることもあるのではないのでしょうか。川崎市にも、民家園が  
ありますので、今後の事業展開で、参考にできる部分があるのではないかと思  
います。検討していただきたいと思います。

それでは、次に移ります。

堀内スポーツ課長。

堀内 「第50回駅伝競走大会」について、ご報告させていただきます。

スポーツ 当日は、先ほど教育長のお話の中にもありましたとおり、スタート時で気温4  
課 長 度という寒い中、教育委員の皆さんを初め、たくさんのご来場をいただきまして  
盛会に開催することができました。

今回の大会の中では、節目の50回記念大会ということで、10年連続競走  
者、出場者13名ほかに感謝状の贈呈をさせていただきました。また、新たにち  
びっ子の部ということで、「ちびっ子の部」を開催いたしましたところ、観客の  
皆さんにスタンドから総出でご覧いただきまして、かなりの盛り上がりを見せて

いましたので、これにつきましては、前会での、奥原委員からのご要望どおり、来年も行う方向で実行委員会に諮っていきたくと考えております。

結果等につきましては、お手元に記載されているとおりでございます。

参加状況ですが、申し込みの時点で150チームありましたが、残念ながら、最終的に2チームのエントリーがございませんでした。風邪が流行っておりまして、メンバーが揃わなかったのであろうと思いますが、種目で103チーム、ちびっ子の部が31チームということで、総計134チームが参加しております。

記録についてですが、地区対抗の部につきましては、渋谷西地区が、5連覇をねらっていたところ、中央林間地区によって5連覇は阻止されています。

また、一般Bの「奥武蔵ボンバーズ」というチームですが、旧いすゞ自動車の社員の方が、ふるさと駅伝として参加して頂いたというものでございます。大変ありがたく思っております。

市内、市外の割合でいきますと、約8割が市内で、それ以外は、近隣の方たちが参加しているということで、念願の100チーム、これをさらに広げていけるような形で、今後展開していきたいと考えております。

鈴木 奥原委員。

委員長  
奥原委員

本当に選手を初め、役員の方たちにおかれましては、寒い中頑張ってください、そして盛り上げていただき、本当にありがとうございました。

まず、ちびっ子の部についてですが、31チームエントリーされ、全チーム参加されたということで、大変嬉しく思っております。特に、低学年の子は、400メートルをもう最初から全力で走って、そして最後のほうにはもう疲れながらたすきを渡してという光景を目にし、まして、「次に待ち受けている人にたすきを渡すために頑張る」という気持ちを持って走ることができる、しかもスポーツセンターというよりよいグラウンドの上で走ることができる、という良い経験をしたのではと思いました。

また、中学年、高学年についても、本当に力強い走り、頼もしいなと思えました。これからも駅伝に興味を持ってもらって走り続けていただけたら、良いと思えました。

また、説明いただきました奥武蔵ボンバーズですが、大和市に戻ってきて参加頂いたということは、本当にありがたいことだと思っています。

これからも大和市の駅伝を盛り上げていっていただきたいと思います。

鈴木 相沢青少年センター館長。

委員長  
相沢青少年センター館長

「平成19年度やまと成人式」の実施報告をさせていただきます。

成人式の日には非常に天候もよく、多くの新成人に参加していただきました。

参加状況ですが、本年は昭和62年4月2日から昭和63年4月1日生まれ、対象者が2,089名でございました。参加者は1,501名ということで、参加率は71.9%でございます。

参加率についてですが、昭和61年からの数字で見ますと、本年は、参加率では過去最高の数字を示しております。

恩師の出席についてですが、本年は、18名の中学校時代の恩師に出席していただきました。各地域に分かれて会場設定しておりますので、恩師を中心に同窓会的に非常に盛り上がった成人式でございました。恩師の先生方も半数以上は最後まで出席していただいております。

そのほか、呈茶、着つけ直し、託児室等の状況については、お手元のとおりでございます。

本年で初めての企画といたしまして、会場の入り口で「もちつき」の実演をいたしました。昨年の新成人代表の実行委員の方に実演をしていただきまして、当日来場した新成人にも飛び入りでもちをついていただき、非常に盛り上がりを見せておりました。ついたおもちにつきましては、会場で新成人の方に食べてい

ただいております。

本年も事故等もなく、大成功で終了することができました。

鈴木 何か質問、ご意見等ありますでしょうか。

委員長 奥原委員。

奥原委員 私の成人式のときは、たまたま大雪で交通機関がストップしてしまったため出席ができませんでしたが、今回の成人式に出席された新成人の方たちの顔を見ると、本当に楽しそうで、そして、懐かしい友達に会うことができ、笑いが絶えないような光景を拝見して、うらやましいなと正直思いました。

資料の新聞にもありますとおり、「子供がいるので出席をあきらめていたので本当にありがたい」という新成人の言葉がありますが、大和市では、今回も託児所を設けられて、よかったと思いますし、これからもぜひボランティアの方たちをお願いをして、継続していただきたいと思いました。

また、今回初めて「もちつき」をされたということですが、毎年、創意工夫ということでますます進化し、そして記憶に残るイベントに作り上げていこうという、その進化していく過程が非常に素晴らしいと思います。

今後もまた実行委員会をつくっていただいて、盛り上げていっていただきたいと思います。

鈴木 参加率が高く、大変結構なことであると思いますが、資料を見ますと、恩師の方のご出席については、人数としては、かなり減っていますね。恩師が、1名しかいらっやっていない学校が、かなりありますから、せっかく同窓会的な良い雰囲気があるけれども、自分の学校は、だれも先生がいらっやらないというようなことになると、その学校出身の新成人が、かわいそうだなという気もします。

教育委員会としては、学校のほうに特別出席を呼びかけるというようなことはしないで、全く自主的に、この実行委員会が招待状を出して、先生が自主的に参加されるということなのではないでしょうか。

1名でもいらっやればと思いますが、ゼロとなってしまった場合を考えますと、心配ですので、質問をさせていただきます。

相沢 恩師を招待するかどうか、基本的には実行委員の方に決めていただいています。そして、実際に非常に評判がよろしいものですから、毎年続いているという館長 ことでございます。

先ほどの託児室についても、平成14年度頃に、当時の新成人の発案で始まったものであります。先日、さいたま市から成人式の前に電話がありまして、全国で大和市を含めて3カ所でしか実施されていないということでした。

恩師の方につきましては、やはり、自主的にというのは、なかなか難しいところがございます。これにつきましては、市の職員のほうで、呼びかけて来ていただいている部分は大きいと思います。

鈴木 ありがとうございます。

委員長 ほかにはございませんでしょうか。

委員のほうからは特にありませんか。

それでは、2月定例会の日程をお知らせいたしまして、この会議を終わります。

2月定例会は、2月21日木曜日、午前10時からを予定いたします。よろしくお願いをいたします。

閉 会

鈴木 それでは、これもちまして教育委員会1月定例会を終了いたします。

委員長

閉会 午前10時52分

上記会議の顛末を証記し、その相違ないことを証し署名する。

平成20年1月24日

署名委員

署名委員

書 記